

はっぴーえんじぇるくらぶ
幼稚園で遊ぼう！

「特色と教育目的」



鹿島カトリック幼稚園

教育理念と特色

本園は、昭和43年に設立され、平成11年4月には学校法人の認可を得、設立以来、多くの市民に親しまれてきました。

教育基本法および、学校教育法の精神に基づいた保育とともに、当幼稚園の教育の基盤であり宗教教育の根源であるカトリック教義に従い、聖書の教えを基準として『心の教育』、『愛』を理念としています。

○ 神様からいただいた大事な幼な児をご家庭と

一致協力して、人々を愛し愛される子どもに育てていきます。

幼稚園と家庭とが同じ方向に目標を定め、子どもひとりひとりがより良き方向に育つように協力し合うことが大切です。
しつけ、基本的な生活習慣、食育など全てにおいて言えることです。
また、たくさんの愛を受け育った子どもは人を愛する人に育ちます。
神様からの愛、家族のあふれる愛に気付き、感謝することが大切です。
ことは、特にこの幼児期に挨拶ができることが、大きくなって、
家族以外の他のひとからも愛される、かわいがられる人に
関係していきます。幼稚園でも教育の一つとして、大切にしています。

○ 子どもたちひとりひとりを大切に、愛されたと感じる心、

いつもほほえみを持ち心豊かに生きる人間性を育て導きます。

保育者はひとりひとりの個性や特徴理解に努め、
のびようとする力に気付き、愛をもって助長します。

① 愛されたと感じる心。

例えば…

(2・3歳児)

毎朝出欠をとるときに欠席のお友だちがいたら
「〇〇くん、風邪でお休みなんだって。寂しいね。
早く良くなるといいね」と必ずみんなの前でことばにします。
お友だちを思う心の育ち、また休んだ時は、みんなが
同じように思ってくれていることを感じ
年少児なりに喜び、感謝＝愛につながればと思います。

(4・5歳児)

母の日、父の日、敬老の日、勤労感謝の日、誕生日など
様々な日を通して、神さま、家族、身近な人、友だちの
大切さ、愛にきづくようなはなしをする。
幼稚園では誕生会で聖堂にはいり、園長先生の話聞き
神さまの祝福をいただきます。「誕生日を与えてくれたのは
神さまです。」「家族を与えてくれたのは神さまです。」
「みんなを大切に守り、愛し、育ててくれるのは
お家の方です。」
「誕生日は、おめでとうってみんなにお祝いして
もらうだけではなく、お家のひとに育ててくれてありがとう。
っていう日なんですよ。」と話をします。

② いつもほほえみを持つ。

保育者自身が、毎日を明るく！元気に！
楽しく！命を大切に！幸せに！心とことばと笑顔を大切に
1日を過ごします。

③ 心豊かに。

(2・3歳児)

これだけではありませんが心豊か＝絵本です。
色々な物語に触れる、耳できく、目でみることは
とてもいいことです。3歳児クラスが取り組んでいることは
保育者が午前中1冊、午後1冊読みきかせを行ないます。
入園して3ヶ月、静かに、物語に入り込んで
聞いてくれるようになりました。

(全クラス)

1日の生活、出来事全て、人のかかわりが
心を豊かにします。

幼稚園生活において～めざす子ども像～

1. 手を合わせる心を育てる

祈りを通して神に感謝します。

(朝と帰りにはマリアさまのご像に、手を合わせ挨拶・祈りをします。食前・食後の祈り、生き物の生死に触れ尊い命に対しての祈り、芋やその他の野菜を育て、自然の恵みに対しての祈り、他、病気で欠席している子への祈り、社会情勢、自然災害へも目を向けています。)

(5歳児)胸(心)の前に手を合わせ、その手の指先が天(上)に向いていることで(心と心で)神さまと話ができるということを話しています。

2. 返事・あいさつが素直にできる

(2・3歳児)保育者、周りの大人が率先して行なうことが大切です。子どもはきいて、みて学びます。

(4・5歳児)名前を呼ばれたら元気に返事をする事、進んであいさつができるように、園生活の中で助言・指導行います。

3. 何事もくじけず心も体も強い子に

集団生活の中では、子ども同士の手加減のない対等で真剣な生活があります。仲間といっしょに仲良く遊んだり、いろいろな経験を積む中で、泣き虫だったりわがままだったりした子どもが少しずつたくましくなっています。運動会、遊戯会などの行事を通して、お友だちと力をあわせて、最後まで頑張る心が育ち、達成感を味わいます。当園では、月3回、年長・年中対象活動専門講師による体育教室があります。楽しみ、元気な体作りにもつながり、転んでも泣かないで自分で立ち上がる子どもが増えました。また、できない、しないから、やってみる、やってみよう！と変化していきます。結果ではなく途中の過程を褒めてやることも大切だと思います。

4. 思いやりのある心を育てる

自分より小さいクラスのお友だちのお世話をしたり、いっしょに遊んだりすることで、思いやりの心・やさしい心がたくさん育ちます。お世話をしてもらった小さいクラスのお友だちは、お兄さん、お姉さんへの憧れや自覚が自然に芽生えてきます。また、「自分が人にしてもらいたいことを、人にもしてあげなさい。」という聖書のことばを用いて、導きます。

5. 人の痛みのわかるやさしい人

実際、自分が痛みを感じて、初めてその痛みに気付けることが多いでしょう。体験・体感して学ぶことも大切なことです。園生活を通して、やさしい気持ちで人と接することができるように、導きます。

6. 誰とでも仲良くする子ども

園庭では、学年問わずいっしょに遊びます。異年齢児とのふれあいの場で年長児は、小さいクラスの子どもたちに自然とやさしく接し、年中・年少児は、自分のしたい遊びをする中で、物の貸し借りが出来るようになり、友だちを誘ったり、仲間に入れたり、入ったりする姿が見られます。ことば・ことば使いもとても大切です。これは大人でも、子どもでも同じです。きれいなことばを使っている人は、友だちも多く、愛されます。保育者は、ひとりひとりのことばに、耳を傾け必要な時は助言・指導しています。

7. 自分の身のまわりのことが自分でできる子ども

当園では、制服で登園し、園到着後、遊び着体操シャツに着がえます。保育者・友だちとの関わり、繰り返しの学びの中で“自分のことは自分で”という望ましい態度・基本的な生活習慣が育ってきます。できた時は褒めてあげると、喜び、自信が持てるようになります。